

公立中央総合病院経営改善の取組み

① 診療体制の充実

② 在宅医療の充実促進

③ 療養環境の改善

④ 医師等医療従事者の確保

⑤ 歳出削減

① 診療体制の充実

- 小児医療の充実
- 輪番制への参加
- 救急車の積極的な受入
- 他病院からの患者受入強化
- 開業医との連携強化

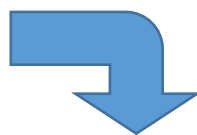


【成果・取組み状況】

- 小児科外来において土日祝日の午前応急診療を開始
- 内科の4診化及び午後診療の開始
- 耳鼻咽喉科・眼科の診療日の拡充、呼吸器外来の開始
- 輪番日 R1年度...7日
- 休日当直医の内科系、外科系の2科体制を確立し患者受入を強化
- 4階急性期病棟を地域包括ケア病棟に変更
- 救急車受入拡充 前年比43%増(上半期)
- 紹介患者の確実な受入

② 在宅医療の充実促進

- 訪問指導強化
- 予防医療の強化
- レスパイト・短期入院の受入



【成果・取組み状況】

- 退院前訪問指導・退院後訪問指導・訪問診療の実施
- 自治会や各種団体への出前講座の実施
- レスパイト入院導入
- 波賀診療所への医師派遣

③ 療養環境の改善

○ 療養環境の改善

【成果・取組み状況】

- 4階5階病棟の6床部屋を4床に、3床部屋を2床に変更
- 冷蔵庫付テレビ床頭台の導入
- 入院支援室の設置

④ 医師等医療従事者の確保

- 大学医局との連携強化
- 魅力ある研修プログラムの作成
- 奨学金助成事業

【成果・取組み状況】

- 医師数H29:22人・H30:23人・R1:24人、研修医H29:4人・H30:3人・R1:5人
- 地域医療夏季セミナー受入(R1...13人)、医学生等病院見学の積極的な受入
- 医師奨学金延貸与者10人、看護師奨学金延貸与者52人(現勤務者22人)

⑤ 歳出削減

- 薬剤のジェネリック化推進
- 照明のLED化
- SPD(院内物流管理システム)導入

【成果・取組み状況】

- ジェネリック医薬品使用率H30...90.1%
- H30年度に院内照明LED化 年間約700万円の削減効果
- SPDによる不良在庫の圧縮、保険請求洩れ防止

*急性期病棟とは

「急性期」とは病気を発症し、急激に健康が失われた状態をさし、急性期の患者に対し、状態の早期改善に向けた医療を提供する病棟を急性期病棟といいます。

*地域包括ケア病棟とは

急性期を経過した患者に対し、在宅復帰に向けた医療を提供する病棟を地域包括ケア病棟といいます。

*レスパイト入院とは

一時的に在宅介護が困難となる場合などに期間を設けた入院の受け入れを行い、介護者の負担軽減を目指す仕組みです。

*SPD(院内物流管理システム)とは

病院が使用する医療材料等の発注から在庫・払出・使用・消費・補充に至る一連の流れをシステム管理し、コスト削減やトレーサビリティなどの医療の安全性を確保する仕組みです。